

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	財務会計論 I
科目基礎情報					
科目番号	0109		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	大原簿記学校監修「日商簿記検定2級商業簿記テキスト」大原出版				
担当教員	長谷川 博				
到達目標					
1.現金預金、債権債務、有価証券、固定資産等、各個別論点について、十分に理解し、正しく会計処理ができる。 2.収益と費用、為替換算会計について、十分に理解し、正しく会計処理ができる。 3.株式会社の意義と資本、事業譲受、株式会社の税金について、十分に理解し、正しく会計処理ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現金預金、債権債務、有価証券、固定資産等、各個別論点について、十分に理解し、正しく会計処理ができる。	現金預金、債権債務、有価証券、固定資産等、各個別論点について理解し、正しく会計処理ができる。	現金預金、債権債務、有価証券、固定資産等、各個別論点についての理解が不十分で、正しく会計処理ができない。		
評価項目2	収益と費用、為替換算会計について、十分に理解し、正しく会計処理ができる。	収益と費用、為替換算会計について理解し、正しく会計処理ができる。	収益と費用、為替換算会計についての理解が不十分で、正しく会計処理ができない。		
評価項目3	株式会社の意義と資本、事業譲受、株式会社の税金について、十分に理解し、正しく会計処理ができる。	株式会社の意義と資本、事業譲受、株式会社の税金について理解し、正しく会計処理ができる。	株式会社の意義と資本、事業譲受、株式会社の税金についての理解が不十分で、正しく会計処理ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 1					
教育方法等					
概要	ビジネス界で評価の高い日商簿記検定2級を取得できることを目標に、そのうちの商業簿記の範囲を網羅する。財務会計は、企業の多様な経営活動を貨幣金額で捉え、企業をとりまく利害関係者に報告することを目的としている。 本講義では、経営活動がどのように営まれるかをふまえながら、企業の経営活動がどのように記録、報告されるかを学習するために、生きた簿記の技術を身につけることを目標とする。				
授業の進め方・方法	当科目履修と並行して工業会計論を修得し、日商簿記検定2級を取得することを推奨する。昨年度までと同様に、2級合格に対応できるレベルで講義を進めるため、目標点は決まっているので、進度を極端に遅くするわけにはいかない。授業の進度に極力ついてくるように予習復習を行うこと。 昨年度の検定結果が良好だったこともあって、全体として達成感があつたように感じられる。授業進度は範囲の網羅を優先し、2級検定受験の際には、時間外に対策を行うことを想定している。				
注意点	2級ではボリュームが大幅に増え、かなりハードになる。選択学生は、簿記の上位級を身につけることの有利さを理解し、相応の覚悟と目的意識を持って臨んでもらいたい。必要なのは、計画的に学習する意欲とそれを継続する医師なのである。 評価が60点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を60点とする。評価方法及び評価基準は、本試験と同じとする。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 簿記一巡の手続き	日々の手続きと決算手続き、および財務諸表についての理解を確認する。	
		2週	現金預金	現金および預金、銀行勘定調整表について、理解し正しく処理ができる。	
		3週	債権債務	債権債務、クレジット売掛金、営業外手形、電子記録債権債務について、理解し正しく仕訳ができる。	
		4週	棚卸資産	商品の評価および割引と割戻について、ならびに売上原価対立法について理解し、正しく仕訳ができる。	
		5週	固定資産	定率法、200%定率法、生産高比例法による減価償却ができる。	
		6週	固定資産	無形固定資産、ソフトウェア、投資その他の資産について正しく処理ができる。	
		7週	債務保証	債務保証の会計処理が正しくできる。	
		8週	中間試験	中間試験	
	2ndQ	9週	引当金	引当金の会計処理が正しくできる。	
		10週	収益と費用	収益と費用の区分について理解し、役員収益と役員原価の会計処理を正しく行うことができる。	
		11週	為替換算会計	外貨建取引と為替予約について理解し、正しく処理ができる。	
		12週	株式会社の純資産	株式会社の意義と資本について理解し、株式の発行、剰余金の配当等、株主資本の計数の変動について、正しく処理ができる。	
		13週	企業結合	事業譲受と合併について理解し、他正しく処理ができる。	
		14週	税金	消費税と法人税等について理解し、正しく処理ができる。	
		15週	期末試験	期末試験	
		16週	期末試験の解答	試験返却	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	15	55
専門的能力	30	0	0	0	0	15	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0